

音声記録（抜粋 Latest）の反訳

録音日：2024(R6)0326

反訳者：野村一也（請求人）

[野村]

口頭意見に戻ります。さっきも言ってる通り、これから僕が話すことは、前回、あなたが、坂野さんが、同席した打ち合わせの場において、ある程度、僕は細かく説明してから繰り返し言わない。そこまで言わせて、信頼されるわけないでしょ？あなたが僕に心配されなくても、示されるのはわかるでしょ？自分で。

[坂野]

いいから、話を進めてください。

[野村]

そんなトゲトゲしい返し方はやめてください。言われて当たり前のことしてるでしょ？

[坂野]

そう言ってくるからでしょう。

[野村]

どっちが悪かったんですか？誤って当たり前のことをあなたしたんじゃないんですか。

[坂野]

だから何なんですか？

[野村]

それに対して「謝っただろう」と、「もう謝ったからいいじゃないか」と言わんばかりの、対応はやめてくれよ。

[坂野]

いや、野村さんだってそう言うでしょう？

[野村]

えっ？

[坂野]

副町長に言ってましたよ、そうやって。

[野村]

何を？

[坂野]

「謝ったんだからいいだろう」って言ってましたよ。

[野村]

いつ？

[坂野]

副町長に・・・

[野村]

黒幕の話でしょ？

[坂野]

だから・・・

[野村]

黒幕の話でしょ？

[坂野]

同じことをやってる。

[野村]

黒幕の話は、あれ一話完結してるよ。

[坂野]

これだって完結してますよ。

[野村]

違う。

[坂野]

何で自分だけ振りかえそうとしてるんですか？

[野村]

一話完結してるというのは、僕は、潔く、その場で留めたよ。潔く、紳士的に。あなたは、僕が、しつこく、しつこく言って、あそこまで論理に逃げ道をなくして、立証して、渋々、認めたんじゃないか。全然違うよ。あそこまでやらないと・・・

[坂野]

もう時間ないんで進めてください。

[野村]

全然違うよ、あなたのやってることと、僕のしたこと。全然違う。

[坂野]

同じこと。

[野村]

全然違うよ。だから、あなたが、信頼されてないことは、自分でも分かってるはずで、あなたが窓口に立って、整理してることが自体が全く信用できない。

「話が脱線し 40 分になったことも話されました」と。「脱線」って言葉を、誰が使ったんですか？

[坂野]

委員・・・

[野村]

委員の誰？脱線という言葉を使ったんですか？

[坂野]

そうですね。

[野村]

僕は脱線という言葉で・・・脱線したつもりはサラサラない。

[坂野]

そりゃそうしょ。本人が脱線してると思って喋らないでしょ。

[野村]

そもそも背景事情を説明しないと、説明が困難なことだから。膨大な背景・・・今回のやつはもっと短くて済むかもしれないよ。ただ、前回にも絡んでること・・・

[坂野]

短くて済むかもしれないじゃなくて、20分で終わらせてください。

[野村]

ちょっと待って。前回30分だったものが、今回2件あるのに、その2件分を20分と。1件だったよりときよりも、さらに10分短くするっていうことに、どこに理由が・・・これ言ったのは委員なんですか？

[坂野]

半・・・

[野村]

ちょっと待って。聞いているのは、前回30分だったのを、40分になったかもしれない。でも今回2件あるものを、2件まとめて、さらに短くして20分にしましょう、というのは、坂野さんが決めたんじゃないくて、委員の方から出たもんなんですか？

[坂野]

そうです。（不明）の中で話し合い、

[野村]

違う。僕が聞いているのは、あなたが持ち出したものじゃなくて、委員の方から「今回、20分にしましょう」って言葉が出たんですか？委員の方から。

[坂野]

誰が言い出したかは、ちょっと覚えてないですけども、

[野村]

僕は、ちょっとあなた言ってることは、信用できない。あんたも外れるわけだから。

[坂野]

聞かないでください・

[野村]

あなたが担当者だから、しょうがないでしょう。あなたに聞くしか。

[坂野]

信じてください。

[野村]

じゃあ、あなたが外れるまで待つよ。信用できないから。次の10日は、10日の日は、僕の都合が悪いし、時間設定に対しても・・・

[坂野]

11はどうか。

[野村]

駄目です。

[坂野]

10日も11日もだめ？

[野村]

それについては、要望書を出し直します。委員に対して。こういう事情で、こういう形での、開催を求めます、ということを出します。近日中に。それを届けてくれればいい。あなたが判断することではない。

[坂野]

いやこれね、結論を60日以内に出さなきゃなんないんです。

[野村]

はい？

[坂野]

60日以内に出さなきゃならないんです。答申を。

[野村]

結論？

[坂野]

結論的っていうか・・・

[野村]

いつ開催するを？

[坂野]

いやいや。

[野村]

違うでしょ？結論？

[坂野]

答申です。

[野村]

答申？それは審査請求があった日から？

[坂野]

そうです。

[野村]

それについては、僕の理由で、開催が遅れてると。だから「60日じゃなくても構わない」と出しますよ。

[坂野]

いや、そういうことじゃない。

[野村]

じゃあ、あなたが変わってくればいいよ。あなたが外れてくればいいよ、担当から。

[坂野]

外れますよ、

[野村]

外れてくれればいい。

[坂野]

外れますけど、審査会は開きますから。

[野村]

速やかに変わってくれればいいよ、速やかに。そしたら、その人とちゃんと話をするから。

[坂野]

野村さんの都合で進んでるわけじゃないから。この審査会。

[野村]

でも、あなたは信用できない。あなたが書いていることは信用できない。

[坂野]

信用しなくていい。

[野村]

だから進まない。いつまでも。あなたが窓口には立ってる・・・

[坂野]

私のせいにしないでください。野村さんが都合悪くて・・・

[野村]

あのね。（不明）ここで今日、この場をもらったのは、審査会の材料にする必要があるかないかを判断する意味もあるんです。

[坂野]

いつ口頭陳述するか、日にち決めましょうよ。今。

[野村]

決めません。もう1件あるから。

[坂野]

いいですか。

[野村]

もう1件あるから。もう1件。今、情報公開出してるのがあるでしょう？それも絡んでくるんです。いま入ってる情報公開とね。「なんでこれを残さないの」と。

「こんなものが何で『残さない』で済まされるの？」ってことで、絡んでくるんですよ。

[坂野]

絡んでくるから何なんですか？

[野村]

コースセパレート図。「ない」「ない」の一点張りで終わらせるけどね。

「ないならないで、あるところがもらえばいいじゃないか」と。「ないものはない」で済ます、そうかもしれないよ。でもね、到底そんなことで、やってることが僕は許しがたいから。それを3回目の情報公開で出したんです。多分あなた方は「ない」で終わるでしょう。

でも、関係してるから、いっぺんにやれば短くて済むんですよ。新たに審査請求を出さなくても。だからそれを、まとめて一緒にやろうと思ってるよ。そしたら、お互いに助かるんだよ。だからこそ、あなたが速やかに、今出してる情報公開の、ものを進めてくれれば、それに対して、審査請求を出しますよ。これについては、

「現在進行中の審査請求と合わせて、進めて欲しい」と、「開始の時期は、この審査請求を出す60時間後に、設定してもらってください」というふうに出しますよ。

以上。あなたの話は聞かない。終わりです。以上。

直接出しますから、小沢さんに。

あれ、いつ出るんですか？

[坂野]

はい？

[野村]

情報公開の、いま、出してるやつは、いつ、いつ回答が来るんですか、開示は？

[坂野]

15 日以内。

[野村]

15 日以内。分かりました。